



会員からのメッセージ



(五十音順、敬称略)

- ・わかばの会20周年にあたって 青木 昭夫
- ・20周年によせて 石井 隆之
- ・ナルク「わかばの会」設立20周年に想う 打越 正長(箕面)
- ・ナルクと自分、思いつくまゝに 大井 文夫
- ・ナルクに入会して 大前 裕子
- ・ナルクについて思うこと 岡田 吉正
- ・絵画同好会の仲間とともに 奥野 享
- ・ナルクの仲間へ感謝!! 木下 妙子
- ・ナルクで想う事 木村 良三
- ・ナルク15年目の模索 久保木 幸代
- ・わかばの会20周年おめでとうございます 見藤 恵子
- ・ナルク入会6カ月 小利池 真由美
- ・ナルク豊中池田「わかばの会」設立20周年を祝して 清水 正弘
- ・20周年おめでとうございます 鈴木 陽子
- ・20周年記念のこと～会員活動管理の事始め～ 高橋 俊雄
- ・設立20周年おめでとうございます 高山 典子
- ・ナルクで過ごした時間 田淵 光子
- ・「わかば」パソコン同好会1期生 辻 富久恵
- ・わかばの会設立20周年に寄せて 豊島 研二
- ・20周年を迎えられおめでとうございます 中田 恵美子(箕面)
- ・ナルクに入会して早や十数年 永田 洋子
- ・日々感謝 服部 節子
- ・ナルク入会のきっかけ～15年 堀 順子
- ・ボランティア20年 堀端 治夫
- ・ナルクの仲間と 本多 逸子
- ・ナルクに入会して 松尾 清子
- ・ナルク入会当時の思い出と更に今後のナルクの重要性について 松本 義男
- ・ナルクと会計学 三村 喬夫
- ・定年後の計画 宮地 輝雄
- ・私にとってのナルク 山本 知子
- ・ナルク入会時の思い出 吉田 光代



わかばの会20周年にあたって

青木 昭夫

20周年を迎え、運営や預託活動に参加されてきた諸先輩の皆様には心から感謝の意を申し上げます。入会后間もなくナルク本部に福祉調査センターができ、以来その活動

が私にとって現役的な仕事の継続で第二の人生として本当に有難く思っています。約5年間運営にも関わりましたが拠点の分離問題等があり、拠点自立に向け福祉施設との協働を図ったのがいい思い出となっています。すごい速さで高齢化が進む日本の中でナルク会員も同様で、ナルクの錦の旗である会員同士の助け合い（預託活動）はその率が高くなれば新しい会員増がない限りその維持はより難しくなると思います。

山積する福祉に関する課題は国や市と同じく、ナルクにもダイナミックな「変革」を期待したいと思います。年末26日にあべのハルカス美術館で新印象派のスーラやシニャックの絵画を観て大感動し、28日には今年も趣味である60本目の映画「海月姫」を観ました。自分の時間を大切にしながら来年10年目も福祉施設で月9回の傾聴活動を元気で楽しく頑張りたいと思っています。

.....

20年によせて

石井 隆之

私は入会13年になります。NALCはボランティア活動の盛んな団体と聞いておりました。神戸大震災でも活躍されたと聞いております。

さて過去の活動状況は年々少なくなっていくような気がしてなりません。確かに高齢になっていくのは解りますが元気なうちは何か活動をして、他の方のお役に立つことで自分も一緒に元気をもらい一日を元気で過ごし、今日も良い日であったと思える生活が大事だと思います。私も60代から70代になり体の調子も変わり十分な活動はできませんが、出来るだけ皆様のお役にたてばと頑張っております。

過去10年は箕面との分離もあり、何かとがたがたしましたが、これからは「わかばの会」独自の活動方針を確実に実行していく決意が必要ではないでしょうか。今後「わかばの会」が発展するのは会員一人ひとりが地域の方や会員同士の交流を活発にしナルクの存在感を広げていくことではないでしょうか。

.....

ナルク「わかばの会」設立20周年に想う

打越 正長(箕面)

ナルクわかばの会設立20周年おめでとうございます。

設立はナルク創立の平成6年4月の同年6月に全国の4~5番目の設立で、全国組織化の先導役と基幹的拠点としての創設であったと先輩よりお聞きしています。高畑敬一氏と学友の方が設立者でその崇高な理念に感動し拠点を開設したと聞いています。その間今日までの成長発展に努力された役員の方々、会員の皆様に敬意を表します。一言で20年と言いますが色々な事が有ったと思われ、その都度英知と努力を傾け問題を解決してきた皆様の尊い絆を感じています。



私は平成9年11月に入会をしました。創設者高畑敬一会長と同業の在阪総合電機会社SA社に勤務し、同年12月に停年退職を目の前に、退職後の生活に不安を感じていました。その夏に労働組合執行委員長K氏よりナルクは、リタイヤ後の生きがいのための活動組織であり、入会をしては、と紹介を受けました。居住地箕面市は豊中市に豊中・池田・箕面市の共同拠点「わかばの会」がある旨を知り、情報は入手していましたが、先ず拠点の内容を知る目的で訪問しました。帰宅途中の豊中駅前にあるビルの4階に拠

点事務所があり、現顧問の木村良三氏が待っていてくれました。ニコニコして優しくナルクの全容について詳しく説明を戴きました。「生きがい」「助け合い」「自立」「奉仕」につき丁寧に熱弁をされ、現在まで自分を育てて頂いた社会に、いささかのお返しをしたいとの思いと、退職後の不安を持っていた自分に「これだ……」の気持ちを持った事を今も忘れません。木村さんの優しい語り口と人格的な人柄を通して、その設立理念の基に集合したナルク会員諸氏の立派な存在が推測されました、またナルクの魅力に芯から惚れ込んでいる姿でした。自分も入会しこれからの生きがいとして活発に活動しようとして即確信をしました。しかしリタイア後の活動は事務所当番が主な活動でした。

その4年後独居の年老いた母親が、兄の週末の帰郷での農作業を手伝いの為故郷（淡路島）に転宅のためナルク活動は休止となりました。それまで現役中から永年活動中の経産省の認可消費者団体の要職も辞任しました。

平成21年秋母の死亡後、再度大阪に帰ってきました。即強力な女性会員から、箕面ブロックの役職に進められ固辞するも、ブロック長を引き受ける羽目になり、「わかばの会」の運営委員の仲間入りをする事となりました。当時は箕面の出身の岡部克己氏が「わかばの会」の代表でした、丁度本部の地域細分化の「お互いの顔の見える組織の推進」の方針に添い、豊中・池田・箕面の集合団体を細分化する分離独立方針の実施の時期でした。しかし長い間一緒にやって来た仲間の分離に対し賛否両方の意見が強く、再三の運営委員会開催、本部から高畑会長を交えての説明会など、相当荒れた時期でした。代表の岡部克己さんの苦しみを痛切に感じました。自分では、これからのナルク運営は本部方針を理解出来、又そう有るべきと考えていました。総会の承認をえて、新生ナルクわかばの会から、箕面地区は分離独立をする生みの痛みの期間でした。

平成22年10月 高畑会長、倉田箕面市長、他来賓を多く迎え「ナルク箕面」設立総会を開催し、正式に全国第130数番目かの拠点として発足をしました。初代の代表に選出され第2期目の今日に至ります。発足当時会員数は94名でしたが、現在182名(26/10末)と成長を見るに至りました。

「わかばの会」は親であり郷里であります、今後もそうした関係を維持しつつ推進してまいります。最後に箕面拠点を代表し「わかばの会」の益々のご発展と会員皆様のご多幸とご健勝をお祈りし、お祝いのことばとします。

.....

ナルクと自分、思いつくまゝに

大井 文夫

昨年、NALC本部が創立20周年を迎えました。仙台市で記念すべき本部総会が開催されました。同時に産声をあげた豊中・池田・箕面「わかばの会」も目出度く創立20周年を迎えました。これも偏に歴代の代表、運営委員、そして何よりも会員の皆様の温かいご協力とご理解があったからこそと思います。

この節目の時に、NALCと自分の事について、思いつくまゝに振り返ってみたいと思います。自分はNALCの創立と同時に入会しましたが、当時はまだ現役で会社の仕事の方が忙しく、ほとんどNALCの活動は出来ませんでした。総会や忘年会、ゴルフ大会に参加していた程度でした。そして今から約10年ほど前に現役を退いてからNALCの活動を始めました。

まず始めは会計を担当させられました。数年たって今度は副会長を仰せつかりました。それも数年担当していますと前任の代表が病気の為退任されましたので、自分が代表代

行となり、その年の総会で代表になってしまいました。会社にいた時の出世よりも格段の早さで代表になってしまいビックリしたのと同時に、その重大さに身の引き締る思いをした事を覚えています。

そして今、NALCにどっぷりと浸かり、会員宅の庭の草取り・手入れ、施設等への手伝い、地元小学校の子育て支援、池田市の介護相談員、そして三役会議や運営委員会への出席、事務所当番など一月の半分以上はNALCの活動で過ごしています。自分はNALCに入会して良かった!!と思っています。もしNALCに入会していなかったら定年後何をしていたらだろうか?といつも思います。

いくら旅行やゴルフが好きだと言っても毎日続けている訳には行きません。自分はNALCの会員になって一番良かったと思うのは、沢山の知り合いや友達が出来た事です。色々な人達と色々な所へ行き、活動や体験をさせて戴きました。体を動かして人と交流することが自分の元気につながっている様な気がします。

医療と福祉、少子高齢化、介護と施設、我々を取り巻く環境は益々厳しくなると思いますが、NALCの会員である事を心の支えに、これから地域の為に、高齢者の幸せの追求の為に、NALCの活動を続けて行きたいと思っています。

=====

ナルクに入会して

大前 裕子

5年前知人に紹介され、ナルクを知りました。「新入会員の集い」に出た時に、若い人が来られましたと言われ、誰の事かと思い周りを見回しました。若いと言われ気を良くして入会しました。

介護施設のボランティアで初めて車いすを押す体験をしたり、こまごました事務所の仕事や、その他色々な事を教わり体験しながら、自分なりに皆様のお役に立つことができれば良いなと思い活動しています。

先輩方が若々しく生き生きと活動されてるのを見習いながら、少しずつ前に進んで行きたいと思っています。同好会などで友達もでき、楽しく充実した日々を過ごしています。これからも宜しくご指導をお願い致します。

=====

ナルクについて思うこと

岡田 吉正

ナルクに入会して10年、その間に多くの方々と知り合いになれたことで、これは大きな収穫でした。それと、高齢化社会を生きていく私たちにとって必要な情報や知識を講演会や施設等見学会を通じて勉強することができたこと、またさまざまな活動によって得た体験も大いに勉強になりました。

各種同好会や、日帰りバスツアー等々、楽しいこともいっぱいありますが、会にとっての課題は、新規入会者の減少で会員の平均年齢が年々上がってきていることではないでしょうか。会員の増加が望まれます。

=====

絵画同好会の仲間とともに

奥野 享

絵画同好会がスタートしてちょうど2年。私にとって絵を描くことは30歳代からはじめたのですから、先達ぐらいの役目だったらできるかなと、集まった皆さんと一緒に静物を描くことからはじめました。ふつうの絵画教室なら、どんな絵具や画用紙がよいかを先生は指導し、静物を描くときには生徒の技量に合わせてモチーフを用意するのが先生の役目です。そんな指導を一切抜きに始めたものですから参加者の持ってきた道具もいろいろ。かえって、日本画の絵の具にはこんな癖があるのかと私自身が驚きながら、いろいろと刺激を受けつつ、いっしょになって絵を描いています。それぞれの個性がはっきりでている絵ができたらと願っています。

一緒に静物画に取り組みながら、例会のときには話す時間がないので「絵を描くことノート」のタイトルで会報に代わるようなものも作っています。思いついたことなどを文章にして皆さんにお配りし、できるだけ毎月1回の例会のときにはお配りしようと思ったものが、すでに16号にまでなりました。この機会にバックナンバーをそろえて事務所に置いておきます。

ナルクの仲間としてのよしみで辛抱強くお付き合いいただいている皆さん、今日まで続けてきましたことを心から感謝しています。本当にありがとうございます。

.....

ナルクの仲間へ感謝!!

木下 妙子

友達の鈴木陽子さんに「ナルクに入らへん」って誘われ、何も分からないまま入会し、月一回開かれていたサロンに参加させて頂きました。久保木さんに引っぱって頂き、サロンのお手伝いから始まりました。サロンでいろんな方と接し、まずお習字の同好会に入り楽しく過ごしていましたが、主人が亡くなって一人暮らしになり、何も手につかず、しばらくお休みしていました。

再びナルクの集まりに参加し、皆さんに助けられ、寂しさから立ち直る事が出来ました。ナルクの仲間がいなかったら、まだ落ち込んでいたかも知れません。今は同好会やイベント等に参加し、楽しい未亡人生活を過ごしています。ナルクの皆さんには本当に感謝しています。

.....

ナルクで想う事

木村 良三

わかばの会に入会して20年。多くの友達が出来たこと、ボランティアを行う事により多くの市民との親しみを持つ機会が多くなり、この喜びを最近特に感じるようになりました。学生時代の友人は80年代になると亡くなり、又、会社OBの友人も疎遠になり、語らいの場が少なくなりました。

人間、健康で長生きするための三つの要素は「食べ物」、「運動」、そして「人との交わり語らい」です。ナルクわかばの会では皆さん一芸に秀でており、語らいの中に大変参考になりました。今後も多くの会員と語らいの場を持つようにしたいと存じます。よろしくご指導下さい。

=====

ナルク豊中・池田 20周年を迎えて (2014年12月号会報から再掲)

木村 良三

わかばの会20周年を迎えることができおめでとうございます。20周年の歩みをお知らせし、皆様のご参考になれば幸いです。

わかばの会は平成6年12月に設立され、26年12月に20周年を迎える事が出来ました。平成6年6月現ナルクの前身「WAC アクティブ・ライフ・クラブ」が大阪市内で発足、私達夫婦も式に参加、同年輩の多くの方々が会場は熱気に包まれ、如何に定年後の人生を有意義に過ごすべきか、志を同じくするか、発起人高畑現会長からこの会についての説明があり、全米退職者協会(略称AARP)をモデルにナルクの理念となった自立、奉仕、助け合い、生きがいを目的に進んで行こうと大会宣言がありました。豊中地区でも早速拠点立ち上げの準備会を開催、平成6年12月に設立総会を豊中桜塚会館で行い、豊中・池田・箕面として産声を挙げました。略称「わかばの会」として5番目の拠点となり活動を開始致しました。当面は事務所を拙宅に置き活動を開始しました。

20年、人間で例えれば少年から成人これから大いに成長する若者の時代です。振り返れば色々困難なこともありました。特に設立直後の平成7年1月には阪神・淡路大震災、早速ボランティア活動開始、豊中には先に設立されたナルク大阪地区・枚方地区の方々が、炊き出し、整理等の為、豊中市社会福祉協議会を通じてのボランティアの応援に駆けつけていただきました。私達も大阪市内で街頭募金や、宝塚会員の方の倒壊マンションから荷物の運び出し等のボランティア活動を行いました。

平成9年8月には会員である田中潤治様のご好意により事務所の一室をご提供頂き、平成24年2月迄の15年間の長き活動の拠点として使用させて頂きました。この間、平成22年10月には箕面市が拠点として分離独立しましたので「豊中・池田わかばの会」として再スタート致しました。10年後の平成23年には東北大震災が発生、ナルクの活動はこの機会を通じて全国多くの会員が募金活動、現地に赴き支援活動等皆さんの暖かい友情の輪が広がったと思います。活動の拠点は事務所から始まります。24年2月からは現在の事務所に移り部屋も大きくなり多くの会議に使用出来、イベントや趣味をお持ちの会員の皆さんにお教え頂く機会が多くなり交わりが一層深くなりました。会員の皆さん。友情を深め、高齢者化社会、元気な高齢者がボランティアとして自助出来ない高齢者を支える共助を進めようではありませんか。このためにも交流を深めていこうと存じます。皆様のご指導をお願い致します。

=====

NALC15年目の模索

久保木 幸代

退職後、ボランティアを志し、NALCを選び14年が過ぎました。振り返ると慣れないパソコン操作にドキドキしながら預託・奉仕活動を集計した事務局の仕事、誰もが参加できる楽しい居場所・サロンの運営、大阪の各施設を地図片手に廻った「介護保険情報の公表」の調査が特に印象に残っています。今はNALCに加え豊中社協の介護相談員ボランティアで現場の勉強をさせて頂いています。

自身の老化、超高齢社会の到来、介護保険施設の入所困難な状況、4月施行の介護保険制度の改正と、不安いっぱいの老後です。NALCの会員同志の相談・話し合い、助け

合いが推進できるよう真剣に模索しなければと思う 15 年目です。

.....

わかばの会 20 周年おめでとうございます

見藤 恵子

7 年前の入会以来、時間預託活動や高齢者施設でのボランティアの他、会報作成・発送のお手伝いをさせていただいています。また一昨年発足した絵の会と編み物サークルに入れていただき、月一度の楽しいひとときを過ごしています。

入会のきっかけは、主人に先立たれ将来に不安を覚え始めたころ、ナルクの時間預託制度を知り魅力を感じたことでした。軽い気持ちで入会しましたが、地縁・血縁の絆、繋がりが薄れつつある今、年齢を重ねた自分自身の中で、会の存在は大きくなって来ているように感じています。

活動を通して様々なことを体験させていただきました。日本は超高齢社会を迎え、これまで以上に世代間の助け合いが必要とされています。多くの課題もあるかと思いますが、私達が体験し学んで来たことはこれからの人生、そして社会を生きる上での良き手掛りとなることでしょう。

皆さまのご健康とご活躍をお祈りいたしますと共に、会のますますの発展をお祈り申し上げます。

.....

ナルク入会 6 カ月

小利池 真由美

団塊世代です。都合をつけて仕事をし、暇を見つけてナルクの一員となり 6 カ月。ボランティア活動もボチボチとではありますが、参加させてもらっています。

子供の頃から社会人になっても競争という言葉に追いかけられ、家庭でも 4 人姉兄の 3 番目、じっとしてたら誰も声さえかけてくれない。自分の事は自分で立ち位置を見つけなければ……。その分、自由と選択肢が沢山ありました。もちろん自己責任で。団塊(かたまり)、嫌なひびきです。個人がないようで。でも考えようによっては仲間が多い。1 人ではなかなか踏み出せない一歩を背中を押してくれる人がいる大事な仲間。肉の塊は調理で美味しく、人の塊は知恵と工夫でそれなりに。

- ・「団塊人 年金下がり 脂肪貯め」
- ・「税金も 血圧も上がり 血の気ひく」

と先が暗く思えてしまいますが、その中で小さな楽しみ探しをしようと思います。

気持ち豊かに若い世代の「重荷」にならないような生き方をするために、そのうち同好会にも参加させてもらいたいと思います。よろしく願いいたします。

.....

ナルク豊中池田「わかばの会」設立 20 周年を祝して

清水 正弘

ナルク豊中・池田・箕面地区にナルクを設立にあたって、田中憲三氏、塩崎鎮雄氏等の発起人と高畑会長(パナソニック出身先輩)から設立準備を手伝ってほしいと要請を受けて、当時、豊中市議会議員として福祉部門の担当委員もさせて頂いていましたので、豊中市行政のパイプ役としてバックアップさせて頂きました。

私の役割は、当時の林豊中市長や、出嶋福祉保健部長の協力を頂き、老人ホームの見学会や市の職員を講師に研修会等をさせて頂き、少子高齢化社会に突入する日本において、行政に「おんぶにだっこ」のあまえることができない時代が迫っているので、「元気な人が介護・お世話が必要な人を助け合うことが」急務となっていることがよく理解出来て、私も入会して活動をスタートしました。

その後、箕面拠点分離独立や、事務所の移転などあり、新生ナルク豊中・池田「わかばの会」は会員一致団結して、会の活動が定着し、設立20周年を迎えることが出来たことは、歴代役員、会員の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。これからは、仏教の教えで「無常に耐えて強く生きる。人に求めず自分を変える。」ことを心にしっかり持って、「自立」し、常に新しいことに挑戦して行きます。

.....

20周年おめでとうございます

鈴木 陽子

母の介護を終え、感傷にひたっている間もなく、運営委員の仕事をさせて頂き、忙しい毎日が私を寂しさから忘れさせてもらいました。ナルクに感謝感謝です。

その中で皆様と一緒に麻雀同好会を立ち上げ、多くの方に参加していただき、沢山の輪が広がっています。今では「麻雀台が5卓いるね」とまで声が上がっています。皆の笑顔を見ていると私も元気をもらい幸せな気持ちになります。

人間待っているだけでは何にも生まれて来ません。一步でも二歩でも前進し、ナルクの活動に参加していただき、仲間同士助け合い、生きがいのある元気な高齢者に御一緒に歩きたいと思えます。どうか、ナルクがますます発展します様、心から願っております。

.....

20周年記念のこと～会員活動管理の事始め～

高橋 俊雄

会員の方の預託、奉仕活動の管理は大変大事なことですが、いまは本部が作成してくれたシステムで、預託、奉仕、会員管理はスムーズに同じシステムで処理できるようになっています。しかし5年程前までは、元会員の方が、当時の当地区（豊中、池田、箕面地区）の活動管理のシステムを独自にアクセスを使い作成願っており、そのシステムを使い、ずっと活動管理を続けていました。ところがパソコンのOSが変わったために、なかなかシステムが上手く作動出来ず、誤作動がしばしば発生し、毎回、インプット作業をしながら、作成した会員の方と電話、あるいは事務所（当時は本町の事務所でした）へ来て貰い、色々と修正しながら活動管理をしていました。

本部には出来るだけ早く全拠点共通の管理システムを作成して欲しいと言い続けて、やっと今のシステムが出来上がったということです。当初の苦勞は、堀端、久保木、木村、石井氏や堀さんや小生等が肌で感じています。それぞれが色々と継続性を保つ苦勞をしながら、現在の会員管理が出来ていることもご理解いただければ幸いです。なお現在のシステムを使用するには会員がそれぞれ一定の負担金を本部に支払いをしていることも忘れずに、貴重な資料を上手く活用し頂けるようお願いいたします。

.....

設立 20 周年おめでとうございます

高山 典子

あの阪神大震災も 20 年目の節目。あの時はまだ若かった私たち。「わあ……大変だ」と気だけが焦って、でも何かをしなくてはと思ったのは私の芽生えかも知れません。

あの時は知人を求め、自分も傷を負った身でしたが足が有る……。神戸へ。武庫之荘までは自転車で、後はもうあの瓦礫の中をひたすら歩いて歩いて三宮へ。背負ったおむすびやお菓子、もろもろの物はもうペシャンコ。瓦礫の中をどう歩いたのか……。あの瓦礫の中の臭いと空気。壊れかけたおもちゃ。哀しそうな人形。生活そのものが押しつぶされ、散乱し、汗と涙が一緒になって目にしみたものです。

そして三年前の東北震災と津波。報道を見ていて、居ても立ってもいられず仙台、釜石、気仙沼、岩手へと行きました。4 カ月目でしたが、未だ災害当時のまま。神戸と違うのは、形ある物が何も無い。草も木も家も、生活の臭いが全て無かったのです。「これからどう成るんだろう……」と、本当に心が痛かったです。

奈良五条の水害土砂崩れも、一週間経っても川の水が濁ったままでした。近年、自然災害が多く、一人ひとりの力が、心が、必要になってくると思います。微力ながら、ナルクでの小さな活動が大きく動くのではないかと……。私も会員の一人として協力を惜しまないつもりで頑張りたいと思います。

- ・自分のことは自分でやる。
- ・内に閉じこもってばかりいるな。
- ・笑う門には福来たる。
- ・感謝を忘れたら人生ダメになる。



ナルクで過ごした時間

田淵 光子

「わかばの会」20 周年、おめでとうございます。この機会に、ナルク入会を振り返ってみると、もう 10 年前になります。その頃は、三重県に住んで居り、小さな悩みがありました。離れて暮らす母の生活です。しかも、ドンドン老いていく母。丁度その頃、何気なく観ていた NHK のテレビ番組で初めて「ナルク」のボランティアを知りました。助け合いをする「会」が有るのです。親孝行にもつながる、なんと素晴らしいと思い、直ぐに入会しました。そこが「生きがいクラブ」だったので。

そして、ナルクの活動がスタートしました。色々なボランティア奉仕活動をして来ましたが、さて、私の当初の目的である親孝行ができるボランティアには、直接つながらなかったのは残念でした。毎週、手作りの料理を皆様と一緒に作り、又、バス旅行も一緒にさせていただく中で、先達の沢山の知恵を学ぶ事が出来ました。

この「会」は、沢山のひとと触れ合う事ができます。これは、人生を豊かにして行く方法でした。それを教えていただき有り難うございます。



「わかば」パソコン同好会 1 期生

辻 富久恵

「わかばの会」20 周年おめでとうございます。豊中本町教育センター 5 階、電話も鳴らない、訪問者も来ないそんな事務所当番の時、事務長さんが中古のパソコンでトラン

プゲームを教えて下さった。家に帰りデスクトップで夢中になった。お料理のレシピを1000種も入力して頂き帰宅の途中の買い物に役立ち時間の浪費が省けました。

2001年8月「わかばの会」にパソコン同好会が立ち入り入会。その日の課題をプリントにして頂いても家に帰ると蹟く。そこから先へ進まず格闘の日もあった。反応の鈍い高齢者に仲間の助言は有難く、その年の暮れには自作の画を入れた年賀状も出来上がった。各俳句会の会報も手書きから解放され年月と共に見栄えするようになりました。酷使した図体の大きなデスクトップが壊れ、ノートパソコンXP、ついで今年満88歳の日々を支えるてくれるのは3台目のWindows7。手隙の時はYouTubeやブログを開くことも日課の内。情報過多のこの頃、好奇心を満たし時を忘れて楽しませてくれる。パソコンを使えるよう道を拓いてくださった多くの方々に感謝しています。

.....

わかばの会設立20周年に寄せて

豊島 研二

1996年(平成9年)にナルクに入会したが、ナルク活動は女房が先輩木村代表のコーディネートにより活発に預託、奉仕活動をしていた様だ。女房の病状が徐々に進行する間に私がナルク活動を引き継ぐかたちになってしまった。その頃の私は生涯現役と仕事に預け、ナルク(わかば)活動は5年後平成14年から。16年には設立10周年記念大会が、本部は東京で、豊中・池田・箕面拠点は大阪で、ナルク本部、豊中・池田・箕面の10周年参加当時のことを思い出します。

10周年から20周年にかけ私なりに感じたことをまとめました。

[わかばの会トピックス]

事務所の移転(広くなったよ、皆さん同好会に参加してよ)

箕面拠点の分離

拠点代表交代 3人

[さて私自身のナルク活動は]

預託、奉仕活動 16年以降ほとんど出来ず、体力低下に勝てず。運営委員会と同好会出席する程度。

[今後の目標]

会員の皆さんとのつながりの輪をひろげ、「何かのお役にたちたい」と思っております。

.....

20周年を迎えられおめでとうございます

中田 恵美子(箕面)

わかばの会開設20周年とお聞きし、さて私は何年になるのだろうと「時間預託手帳」を探し出して見ますと平成13年7月に入会、13年も経っていました。まだ50代で若かったですね!

子育ても終わり何か役に立ちたいと思い豊中の事務所を訪ね当番をしておられた木村さんに入会の申込をしたことを覚えています。当時の岡部代表に紅葉の郷のドライヤーを頼まれ、それが奉仕活動の始まりでそれは今も続いています。その他新年会で司会をさせて頂いたり、サロンやドーンセンターで落語をさせていただいたり、毎日が氣力に満ち楽しかったですね!カラオケ同好会も開設時のままずっと「わかば」と「みのお」の会員と一緒に活動し会員の皆様の励ましのお蔭で11年も続き長寿を喜んでいます。

でも今までは元気にボランティアが出来ましたが私をはじめ当時の会員は揃って齢をとりこれからはボランティアして頂く立場になります。「ナルクに入っていて良かった！」と思える様に、まだ自分に出来る事で役に立つ事を探し、互いに支え合って楽しい会にする事が大切だと思います。又ナルクみのおの行事にも参加して頂き交流が深まればいいなと思っています。

.....

ナルクに入会して早や十数年

永田 洋子

入会の動機としては、「老後の生きがい」として夫婦二人でやれることを捜していた時、主人の謡の友人から紹介していただき入会しました。ボランティアで人の役に立てばと始めたことが、逆に昨年主人がガンに倒れ、私や家族だけでは支えきれなくなった時、ナルクの方々に支えられ、何とかやり抜く事が出来ました。おこがましくも自分がボランティアをすると思ったのに、逆にいろんな活動の中で癒されてきました。ナルクに入っていて良かったとつくづく思います。

もう一つ同好会の事ですが、箕面拠点が別れて、「わかばの会」は何となく停滞ムードが充満していました。そこで多数の女性運営委員たちで、いろんな同好会を立ち上げたのです。太極拳やダンス、火曜サロンなど。麻雀は当初箕面と合同でしたが、事務所が今のマンションに移転したのを機に、「わかばの会」だけで始まりました。

今では同好会、愛好会も多数になり、会費は事務所の運営費にかなり貢献してます。それと私たちも年を重ね、人と接する場が必要になった今、とても役にたっているのが嬉しいかぎりです。

.....

日々感謝

服部 節子

子供の頃、母方の祖父母が大好きで、電車・バスを乗り継ぎ 40 分、バス停から歩いて 20 分もかかる田舎の家によく行きました。思い出すのは、おくどさんの前で焚き付けをしながら話してくれる昔話や当時祖母が毎年行っていた昭和 20 年代の東京の話聞くのが何より楽しみでした。私のボランティア精神の原点はここにあるように思います。現在 1911 年生まれ・104 歳の方と 10 年来親しくさせていただいております。月に一度のお喋りは話題も豊富で楽しく、かけがえのない大切な親友です。

ナルクの活動の一つに豊泉家で月 3～4 日お手伝いをさせていただいています。3 時間のお手伝いは、多少の疲れを覚える事もありますが、「今度いつ来てくれるの？」と声をかけて下さると、私の脳内でたちまちオキシトシンが湧き出るのでしょう、疲れも吹っ飛び、喜びに変わる魔法の言葉となっています。又今後わかばの会活動で、大好きな子供たちと触れ合うようなお手伝いがあれば是非参加して、子供たちのパワーをもらえたら……と身勝手なことを考えています。

健康な身体を授かり、汗して働く喜びを背中教えてくれた父母に感謝しつつ、わかばの会でご活躍のお元気な諸先輩方を目標に、楽しみながら今少し頑張っ、若い方にバトンタッチしたいと思います。

わかばの会設立 20 周年、今日まで携わって下さった多くの会員様にお礼を申し上げます。

=====

ナルク入会のきっかけ～15年

堀 順子

50代の後半時代に一人暮らしはまだ大丈夫だと不安にも思わないで過ごしていたある日、高畑会長の「ナルク」についての講演を聞かせて貰う機会がありました。ふと10年後の生活はどうなっているのだろうかという不安と、少しでもどなたかのお役に立つ事が出来るだろうか？出来るなら預託制度のシステムはとても魅力的と思いました。即、申込みして「わかばの会」豊中・池田・箕面に入会させて頂きました。

「わかばの会」設立から20周年の四分の三にあたる15年がアツと言う間のように過ぎました。今はナルク「わかばの会」に入会して本当に良かったと思っています。入会当時は考えられなかった活発な活動や、事務所に皆さんで集う機会も多く沢山の方々に出会いました。ほんの少しのお手伝いでも参加している喜びがあり、行く所があり、用事があり、仲間がある事はこの上なく幸せに思います。

=====

ボランティア20年

堀端 治夫

平成6年12月4日、29名が参集して、「わかばの会」が発足して20年。めでたくもあり、。。。。。。会の体制も整わないうちに、阪神・淡路大震災に見舞われ、木村さん他の方々の行動で、わかばの会のボランティア活動が始まった。

田中さんの後、平成9年より3年間2代目の支部長を務めさせて頂いた。この間、多くの方々の協力を得て、事務所の開設・会の運営基準の作成・管理SYSの構築・会報わかばの発行を行うと共に、会員間の助け合い活動と地域への奉仕活動を中心に会の活動基盤を築くことが出来たと思っている。その後、「わかば10年のあゆみ」の作成・会報の150号発行を機に活動現役を退くことにした。

私が忘れることが出来ないのは、大震災の直後、大きなザックを背に、終戦直前の焦土となった東京を思い出すような惨状のなか、西宮北口から夙川・芦屋の知人宅へ支援物資を届けた帰りの車中でのこと。真黒に汚れ疲れ切った顔の無言の若者達に思わずご苦労さんと声を掛けると、笑みを浮かべて頭を下げられた。彼らは「支援活動の後、涙を浮かべ繰り返し有難うと言われた時の感動は忘れることの出来ない体験でした。又来ます。」と口々に話してくれた。この若者たちの人間性と感性は、以後の私のボランティア活動に大きな影響をもたらしている。

私は現在85歳となったが、10年程前から、社協・地域福祉委員会そして「パソコンプラザinとよなか」でボランティア活動をしているが、活動の理念は変わらない。わかばの会も20年を機に、中期の目標を明確にして共有し、ボランティアとして新たな一歩を踏み出されることを願っている。

=====

ナルクの仲間と

本多 逸子

昨年5月に病気が分かりとても失望していましたが、わかばの皆様にも励まされ、今は事務所に来て麻雀ができるようになりました。仲間の方々とお弁当を食べながらの会話

で気持ちも陽になります。できるだけ事務所に足を運び、多くの皆様にお会いできることが楽しみです。

.....

ナルクに入会して

松尾 清子

ナルクへ入会して一月が過ぎました。まだ何も分かりませんので、教わりながら皆様の活動時間等をパソコン入力をしました。その作業でやっと1ポイント積み立てが出来ました。何か親孝行が出来たらと思い入会したのですが、そう簡単にはポイントは貯まりそうにありません。

また、サークルのお誘いを受けて、早速麻雀教室に参加致しました。女性が沢山参加されていて、和気あいあいでした。大盛況でした。私も仲間に入れて頂き、初心者ですので一杯振り込んで喜ばれ、楽しい時間を過ごしました。サークル活動や奉仕活動を楽しみながら、活動を続けて行けたらと思っています。

.....

ナルク入会当時の思い出と更に今後のナルクの重要性について

松本 義男

20年余り前頃であろうか。ナショナル住宅がNHK文化放送と共同行事にて「住まいについて」のセミナーを開催されていた。それに参加している内に私自身も講師になったりしてセクレタリーを勤める破目になる。或曰、ナルクの本部役員が講師に来られて、それがきっかけとなり、ナルクに入会させて頂いた。

昭和40年頃、私が勤務していた紡績会社が子会社を設立し、その責任者として門真にてボウリング場を開業した。場所柄ナショナル抜きには考えられなかったもので、縁者にて電工の役員に然るべき人の紹介を依頼した。その方が後程ナルク会長になられた高畑様であった。

ナルク入会時は夫婦共若老人であったので企業が老人に何を望むのかとのマーケットリサーチであるとか、ナルク本来の奉仕活動にも積極的に参加させて頂いた。その当時のわかばの会をふり返ると、建前論、本音論が交々にて女性パワーを少し軽視していたのではないかとの反省もしている。最近は女性上位の方向にて大変微笑ましい。事実我が家も家事に就いて大変お世話になっている。

今後少子化、高齢化がより多様化してくる事が必至にて、加えるに在宅介護が益々重要視されるにつけ、わがナルクわかばの会の重要性必要性が大なると言わざるを得ないと考えている。

.....

ナルクと会計学

三村 喬夫

2011年4月に入会しました。入会の動機は大学および会社の先輩からの要請によるものでした。NPO法人の拠点会計の面倒を見て欲しいとのことでした。当時他に仕事もやっておらずゴルフばかりやって遊んでいましたし、経理・会計は理論と実務も十分な経験がありましたので引き受けることにしました。

NPO法人の経理は初めてでしたので、NPO会計原則もネットで探し勉強しましたが、

理解できない項目はありませんでした。2011年4月以降、実際に会計業務を始めましたが、NPO法人としてのナルク特有の勘定科目があるのと、会計システムも導入されておりスムーズに業務に慣れることができました。

会計業務の実態としては、入金伝票月平均35件、郵便貯金伝票約10件、振替伝票1～2件ぐらいですので、週1回と決算日に約2～3時間で業務を遂行しています。特に重点を置いているのが、未収入金管理と決算報告です。未収入金管理はエクセル表で管理表を作成し入金遅れを毎月フォローしています。

決算報告は毎月の運営委員会で貸借対照表の重要なポイントのみ説明、活動報告書は主要項目の説明と黒字・赤字になった理由の説明および計画対比で良かった点・悪かった点を説明し、課題を指摘しています。同時に未収入金の管理状況を説明し問題点を指摘し、そのフォローをお願いしています。女性会員から説明が分かりやすいと好評なので、うれしい限りです。

会計・経理の仕事は、その事業体の経営に役立つものでなければならぬと常に肝に銘じて、楽しみながら会計業務をやっています。私にとってこのボランティアの位置づけは「趣味としての経理」をやっていることです。

=====

定年後の計画

宮地 輝雄

定年を1年後に控え、ナルクに入会しました。当時、定年になれば、「自分の勉強」、「自分の楽しみ」、「ボランティア活動」のために、それぞれ3分の1ずつの時間を使おうと思っていました。会社では最長老でしたが、ナルクでは私が最も若い世代。最初の感想は「エライ所に入ったなあ……」でした。

休日の夜でもできる箕面市民活動センターの当番でナルクの活動をスタート。その後、会報作成やホームページの管理、活動管理システムの導入などの事務局作業を手伝うようになりました。介護施設でウェルカム・ドリンクのサービスを行うのは苦手でしたが、事務局作業は違和感なく取り組みました。

ナルクに入会后、今までほとんど縁のなかった老人介護施設に出入りさせて頂いています。そこでの状況を見ていると、いろいろと考えさせられます。生まれてからこの年になるまでの人生よりも、これからの人生の方がずっと重く大変と思うのです。幸い「わかばの会」には模範となる先輩方が多くおられます。その方たちを見習って、少しでも有意義な人生を歩んで行きたいな……と思っています。

「自分の勉強」、「自分の楽しみ」、「ボランティア活動」のためにそれぞれ3分の1ずつの時間を使う計画でしたが、「自分の勉強」が達成できていません。この年になっても、勉強の優先順位は低いままなのです。

=====

私にとってのナルク

山本 知子

23年間の奈良での生活を老後に向けて池田のマンションに移して8年。全く知人の居なかった私でしたが、まるで旧知の間柄の様な人と人との繋がりが私を根づかせてくれました。

母の介護で走り回っていた日々、今自分自身が長い老後の入口に立ち、変化しつづけ

る社会のしくみや問題を多くの方々と共有し学ばせていただけるのが私にとってのナルクの存在です。

人は一人では生きて行けない……何か悩み事がある時、親身に相談できる窓口として、知識と真心を持ち私自身もお役に立てる存在になりたく思っております。

=====

ナルク入会時の思い出

吉田 光代

「わかばの会」設立20周年、おめでとうございます。私がナルクを知ったのは、当時参加していた朝日新聞の「ひととき会」の用事で生活文化部に行き、そこで大きく取り上げられていたナルクの記事からでした。時間預託をして老後という趣旨に賛同し、早速本部に電話しました。ですが、担当の方に50歳からしか入れませんと言われ、その時点であきらめました。後からお聞きしたら50歳前の方も入会されており、その時点で参加していたら、すぐ後に起きた阪神大震災でもお手伝いが出来たのにと今でも残念です。

借り上げ社宅の期限が切れ、以前から購入していた豊中のマンションに引越してきて数カ月後、体調を崩し、家族には連絡がつかず自分で救急車を呼びました。4時間の点検後すぐに入院をと言われたのですが、病院の方に入院の用意をしてくれる人がいませんで通院しますと言い、その後4日間通いました。その時の心細さは今でも忘れられません。

すぐにナルクに入会して連絡委員会でその経験を話したら、木村さんがSOSの電話番号を作ろうと言って下さり、皆様が賛同された時の感謝の思いが私の原点です。私も皆様のために出来る事はさせて頂こうと思いました。会に入り会報作成に携わり、堀端さんにはパソコンなどいろいろ勉強させて頂きました。ナルク主催の講習会ではヘルパー2級を、その後施設に勤務して介護福祉士の資格も取り今も継続して働いています。

今「わかばの会」の平均年齢は72歳。これからどのように動いていくのか大きな課題ですが、会員の皆様とこれからの生きがいを見つめ歩んで行きたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

編集後記

皆さんそれぞれに忙しい中で、20周年に寄せるメッセージを書いていただきましたが、ご覧のように31通も揃いました。ご苦労さまでした。編集に当たった1人としてメッセージを読んでいると、NALC「わかばの会」への皆さんの思いがひしひしと伝わってきます。先日の福祉についての学習会では、財政赤字で高齢者福祉の見通しが暗いという話も聞きましたが、そんな福祉の一般論とは別に、私たちわかばの会がいま持っているエネルギーは、マグマのように熱があり力があるのだという確信が、皆さんのメッセージからは伝わってきました。わかばの会の1員であることがとてもうれしくなっています。この喜びを互いに確かめ合い、より確かなものにしていきたいと、ちょっとばかり昂揚した気分になりつつ、このメッセージ集ができたことの喜びを一緒に分かち合いたいと思っております。(奥野 享)